

都城工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	建築学研究
科目基礎情報					
科目番号	0073		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜、資料を配付する。				
担当教員	原田 志津男,加藤 巨邦,小原 聡司,中村 孝至,中村 裕文				
到達目標					
1) 4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策をある程度整える。 2) 5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択に必要な基礎的知識・情報を得る。 3) 社会人として必要な態度やコミュニケーション能力の重要性を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低到達レベルの目標(可)
評価項目1	4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策を整えることができた。		4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策をある程度整えることができた。		4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策に着手できた
評価項目2	5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択ができた。		5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択に必要な基礎的知識・情報を得ることができた。		5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択に必要な基礎的知識・情報に触れることができた。
評価項目3	社会人として必要な態度やコミュニケーション能力を獲得することができた。		社会人として必要な態度やコミュニケーション能力の重要性を理解することができた。		社会人として必要な態度やコミュニケーション能力にふれることができた。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	就職・進学・公務員試験対策,卒業研究の前準備,卒業研究の報告会参加を通して,4年次後半 から始まる進路の選択と5年次の卒業研究の選択のための準備を整える。				
授業の進め方・方法	1)進路対策で、取り扱う事項は一般的な内容なので、具体的な対策については各自で過去の求人実績・進学実績(学科事務室に資料あり)を調べ、て研究を行うこと。 2)最近の卒業研究のテーマについて調べ、ておくこと。				
注意点	進路対策(1)				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	研究室の説明	各研究室のゼミ内容を理解し、テーマの選択ができる。	
		2週	研究室ゼミ(1)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		3週	研究室ゼミ(2)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		4週	研究室ゼミ(3)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		5週	研究室ゼミ(4)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		6週	研究室ゼミ(5)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		7週	研究室ゼミ(6)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		8週	研究室ゼミ(7)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
	4thQ	9週	研究室ゼミ(8)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		10週	研究室ゼミ(9)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		11週	研究室ゼミ(10)	ゼミ担当教員に指示された内容を理解し、指示された通りに実行することができる。	
		12週	卒業研究報告会の聴講	各研究室の代表的な卒業研究発表の聴講を聞き、卒業研究のテーマと研究室の選択に必要な情報を得ることができる。	
		13週	進路対策(1)	進路活動に必要な事項を理解し、今後の進路活動の計画の立案ができる。	
		14週	進路対策(2)	エントリーシートの作成を通して自己分析と業界研究の達成度を把握し、今後の課題を認識できる。	
		15週	進路対策(3)	個人面接および集団面接の練習を通して社会人として必要な態度やコミュニケーション能力を獲得することができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	後8,後9,後10

			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	後10,後11		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	50	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0